

【特別の教科 道徳】

■児童の状況	〔低学年〕 ・登場人物の心情を自身の経験を参考に表現できる児童がいる一方、思っていることを適切に表現することが難しい児童もいる。 〔中学年〕 ・授業で考えた道徳的価値が、日常生活での判断及び実践には結び付かない児童もいる。 〔高学年〕 ・教材文と自身の経験を照らし合わせて友達とお互いの考えを深め合うことができる児童がいる一方、自身の考えを文章で表現することができても、伝え合うことに抵抗感を持っている児童もいる。
■指導についての課題	〔低学年〕 ・語彙がまだ少なく、心情を適切に表現できていないため、言語活動を豊かにする必要がある。 〔中学年〕 ・授業内容と生活の実態をつなげて考え、道徳的実践力を身に付けられるよう工夫する必要がある。 〔高学年〕 ・お互いの考えを伝え合う活動を、意図的に取り入れる必要がある。
■授業改善に向けての具体的な方策	〔低学年〕 ・道徳の時間だけでなく、日常的に自身の心情を表現する言葉を取り上げるようにし心情を表現する語彙を豊かにしていく。 〔中学年〕 ・教材文の状況を自分事として捉えるために、自分の考えと向き合う時間を十分に確保する。 〔高学年〕 ・発問を精選していくことで、何について考え・表現すべきなのかを明確にし、自分の考えをもてるようにする。 ・伝え合いの時間を十分に確保し、答えが一つでないことを経験させる。